

2024年12月期 決算説明会

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証スタンダード)

2025年2月28日

目次

1. 2024年12月期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

設備投資額・減価償却費・研究開発費

2. 2025年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

3. 今後の重点施策について

不動産事業について

医薬品事業について

機械関連事業について

繊維事業について

新規事業について

4. 基盤となる体制整備

ガバナンス体制及びリスク管理

人的資本

5. 株主還元について

1. 2024年12月期 決算概要

連結損益計算書

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)	2024実績	2023実績	前期増減	2024予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	39,424	39,972	▲ 548	40,700	▲ 1,276
営業利益	4,124	3,803	321	3,600	524
営業利益率	10.5%	9.5%	1.0pt	8.8%	1.7pt
経常利益	5,483	5,068	415	4,600	883
特別利益	2,930	804	2,126	—	—
特別損失	1,016	1,309	▲ 293	—	—
法人税等	3,653	1,331	2,322	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	3,524	3,045	479	3,000	524

■ 前期対比

【売上高・営業利益】

- ・減収ながらも増益での着地（詳細は次ページ）

【特別利益】

- ・投資有価証券売却益 +2,038M（前期804M→当期2,842M）

【特別損失】

- ・割増退職金 +207M（前期567→当期774M）
- ・減損損失 △613M（前期741→当期128M）

【法人税等】

- ・子会社株式の追加取得に伴う税務調整により増加

■ 予想対比

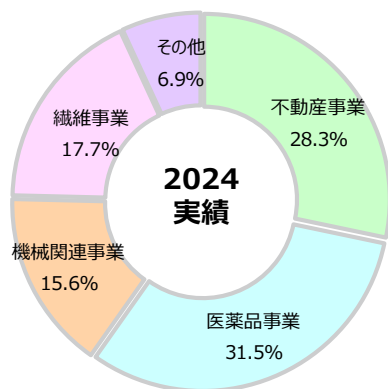
- ・繊維事業および機械関連事業において予想対比減収も減益幅は限定的。
- ・他方、不動産事業で「コクーンシティ」が好調に推移していることや、水光熱費の減少等により、予想対比で増収増益。

連結損益計算書／セグメント別実績

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)		2024実績		2023実績		前期増減	
		A		B		A-B	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
	不動産事業	11,139	4,269	10,833	3,985	① 306	284
	医薬品事業	12,403	208	13,059	202	② ▲ 656	6
	機械関連事業	6,147	88	5,972	▲ 83	③ 175	171
	繊維事業	6,981	652	7,481	706	④ ▲ 500	▲ 54
	その他	2,751	119	2,625	144	⑤ 126	▲ 25
	調整額	—	▲ 1,214	—	▲ 1,152	—	▲ 62
合計		39,424	4,124	39,972	3,803	▲ 548	321

セグメント別売上高構成比



①：不動産で増収・増益

- ・ ショッピングセンター「コクーンシティ」におけるテナントからの賃料収入の増加により増収・増益

②：医薬品で減収・増益

- ・ 2024年2月に発売した「ペプリジル塩酸塩錠」が売上に寄与したものの、薬価改定の影響により減収
- ・ 希望退職に伴う労務費等の固定費減少により営業損益は好転

③：機械関連で増収・増益

- ・ 車載用半導体不足や法規制に伴うモデルチェンジ等によるシャシ(※)入庫遅延が改善傾向にあり、大口受注の一般車や、高単価である特殊車等の過年度受注分の販売が進んだことにより増収・増益
- ※自動車のエンジン、シャシフレーム等走行に係る基本部分（車体）をいう

④：繊維で減収・減益

- ・ (株)ニチビで耐熱性繊維の需要回復の遅れが発生したほか、オグランジャパン(株)で実用衣料の肌着で一部商流変更があったこと等により減収・減益

⑤：その他で増収ながらも減益

- ・ 2023年度より連結子会社化した株式会社カタクラ・クロステクノロジーの通年寄与により増収
- ・ ビル管理サービス事業における減収等により減益

連結貸借対照表

2024.12 決算説明会

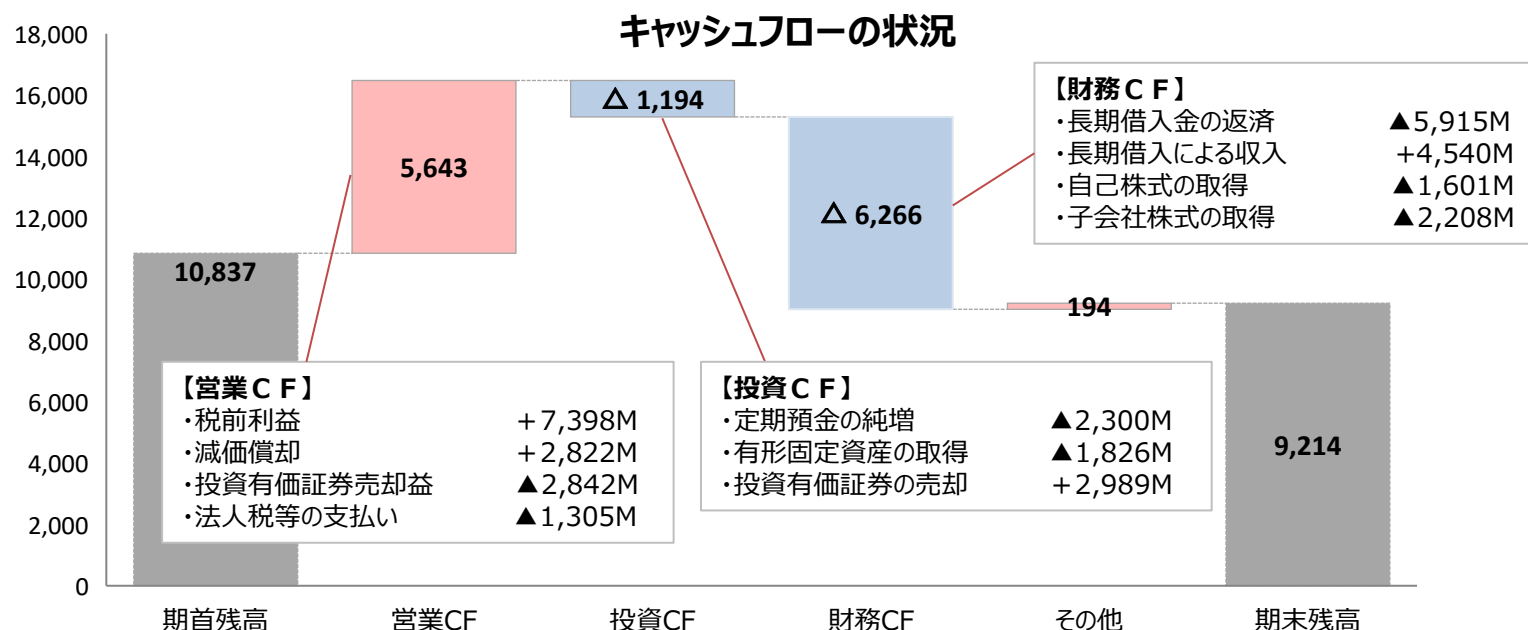
(単位：百万円)		2024.12	2023.12	前期増減	
		A	B	A-B	
流動資産		58,437	57,151	1,286	
固定資産		82,348	82,459	▲ 111	
有形固定資産		41,162	41,573	▲ 411	
無形固定資産		566	632	▲ 66	
投資その他の資産		40,619	40,253	366	
投資有価証券		32,887	35,657	▲ 2,770	・ 政策保有株式の売却
退職給付に係る資産		6,902	3,825	3,077	
資産合計		140,786	139,611	1,175	
負債合計		51,054	50,246	808	
未払法人税等		2,887	648	2,239	・ 信託財産の時価上昇による増
借入金		9,752	11,105	▲ 1,353	
純資産合計		89,731	89,365	366	
資本剰余金		15,000	6,107	8,893	・ 子会社株式の追加取得による増減
利益剰余金		55,166	52,160	3,006	
自己株式		▲ 4,463	▲ 3,046	▲ 1,417	・ 当期純利益計上による増
其他有価証券評価差額金		15,342	16,995	▲ 1,653	
退職給付に係る調整累計額		3,118	704	2,414	
非支配株主持分		3,693	14,641	▲ 10,948	
負債・純資産合計		140,786	139,611	1,175	

連結キャッシュフロー計算書

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)		2024実績	2023実績
現金及び現金同等物の期首残高		10,837	10,462
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,643	3,576
投資活動によるキャッシュ・フロー		▲ 1,194	606
財務活動によるキャッシュ・フロー		▲ 6,266	▲ 4,062
現金及び現金同等物の増減額		▲ 1,817	120
その他 (※)		194	254
現金及び現金同等物の期末残高		9,214	10,837

(※)：連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額



設備投資額・減価償却費・研究開発費

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)		2024実績	2023実績	前期増減
		A	B	A-B
	繊維事業	842	158	684
	不動産事業	705	302	403
	医薬品事業	414	587	▲ 173
	その他のセグメント	221	166	55
設備投資額		2,182	1,213	969

	不動産事業	1,456	1,359	97
	繊維事業	376	253	123
	その他のセグメント	990	1,047	▲ 57
減価償却費		2,822	2,659	163

	医薬品事業	2,039	2,235	▲ 196
	その他のセグメント	100	145	▲ 45
研究開発費		2,139	2,380	▲ 241

2. 2025年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)	2025予想	2024実績	前期増減
	A	B	A-B
売上高	40,600	39,424	1,176
営業利益	4,600	4,124	476
営業利益率	11.3%	10.5%	0.8pt
経常利益	5,500	5,483	17
親会社株主に帰属する当期純利益	4,000	3,524	476

【売上高・営業利益】

- 増収・増益の見通し（各セグメントの詳細は次ページ）

連結損益計算書／セグメント別予想

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)	2025予想		2024実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	11,500	3,800	11,139	4,269	① 361	▲ 469
医薬品事業	11,600	700	12,403	208	② ▲ 803	492
機械関連事業	7,300	300	6,147	88	③ 1,153	212
繊維事業	7,300	800	6,981	652	④ 319	148
その他	2,900	100	2,751	119	149	▲ 19
調整額	—	▲ 1,100	—	▲ 1,214	—	114
合計	40,600	4,600	39,424	4,124	1,176	476

- ①：不動産では、コクーンシティを中心に引き続き好調を維持し増収を見込むも、固定資産税の上昇や設備更新によるコストの増加等により、減益を見込む。
- ②：医薬品では、薬価改定に伴う売価下落により減収を見込むも、希望退職による労務費の減少等により、増益を見込む。
- ③：機械関連では、シャシ在庫遅延が改善傾向にあり、過年度に受注した繰り越し分が、順次販売される。これに加え、原材料高騰を反映した販売価格設定により収益性が改善することで、増収・増益を見込む。
- ④：繊維では、(株)ニチビにおける機能性繊維の売上伸長等により増収・増益を見込む。

➡各セグメントの詳細は、P12ページ以降の「今後の重点施策について」に記載

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

2024.12 決算説明会

(単位：百万円)		2025予想	2024実績	前期増減
		A	B	A-B
	不動産事業	2,674	705	1,969
	医薬品事業	1,024	414	610
	繊維事業	716	842	▲ 126
	その他のセグメント	651	221	430
設備投資額		5,065	2,182	2,883

	不動産事業	1,476	1,456	20
	医薬品事業	705	769	▲ 64
	繊維事業	304	376	▲ 72
	その他のセグメント	241	221	20
減価償却費		2,726	2,822	▲ 96

	医薬品事業	1,656	2,039	▲ 383
	その他のセグメント	117	100	17
研究開発費		1,773	2,139	▲ 366

3. 今後の重点施策について

不動産事業について

2024.12 決算説明会

■ 25年度の見通しについて

◆コクーンシティ

- ・契約更改や継続的かつ戦略的なテナント入替を通じ、収益基盤を強化
- ・固定資産税・リース原価・業務委託費等の運営コストは増加傾向にあるが、施設魅力や鮮度向上につながる投資※は継続し、価値向上を図る

◆地方物件

- ・市場環境が厳しい中で売上は前期並みを維持
- ・契約更新時の再投資に加え、経年老朽化や相次ぐ自然災害への対応を継続



※フードコートリニューアル（席数拡大、滞在性向上）

■ 今後の取り組みについて

◆さいたま新都心

- ・新規開発に向け、建築費や金利上昇等マーケット動向注視し、投資タイミングを見極め。
- ・コクーンシティの競争力強化を継続
- ・さいたま新都心エリアのグループ会社保有不動産跡地（旧東京研究所）の住宅系開発の検討

◆構造改革の結果生じた不動産の早期活用の具体化

◆地方物件は、適切な維持管理と設備投資によって資産価値を保ち、収益を持続・安定させる

医薬品事業について（トーアエイヨー(株)）

2024.12 決算説明会

■事業環境について

- ◆日本国内における毎年の薬価改定により売価下落は継続
- ◆2024年10月から選定療養制度が開始
長期収載品は販売単価数量が減少も、後発品は販売数量が増加

■今後の取り組みについて

- ◆後発品ベプリジル錠（不整脈・狭心症治療薬、24年2月発売）のシェア拡大
- ◆コスト構造を見直し、高効率な組織体制へ再編
 - ・100名を超える希望退職の実施、全国の支店・営業所再編による本部直接管轄への体制変更
 - ・工場の設備更新を行い、生産効率の向上を推進
- ◆既存薬の剤型追加・適応拡大、継続的な後発薬の上市
- ◆循環器領域にとどまらない幅広い医薬品の開発
- ◆ビソノ®テープ（経皮吸収型・β1遮断剤）の中国展開
- ◆CNT-01（中性脂肪蓄積心筋血管症治療薬）の開発方針を検討

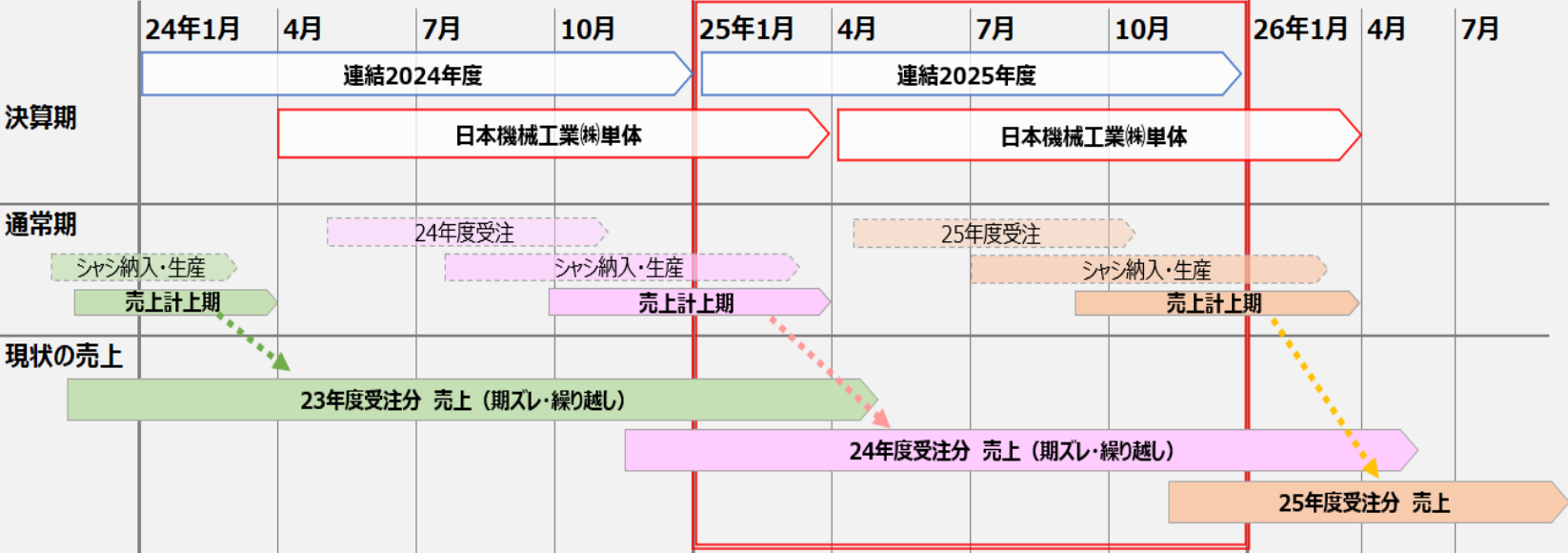


機械関連事業について（日本機械工業(株)）

2024.12 決算説明会

■ 25年度の見通しについて

◆シャシ在庫遅延は改善傾向にあり、時期ズレした過年度の受注分の販売が進む



- ◆原材料高騰を販売価格に反映することにより収益性が改善
- ◆主力の小型車の販売台数増、中型車の大口案件の販売により、増収・増益
- ◆高単価の特殊車は、堅調に推移し売上に寄与

■ 今後の取り組みについて

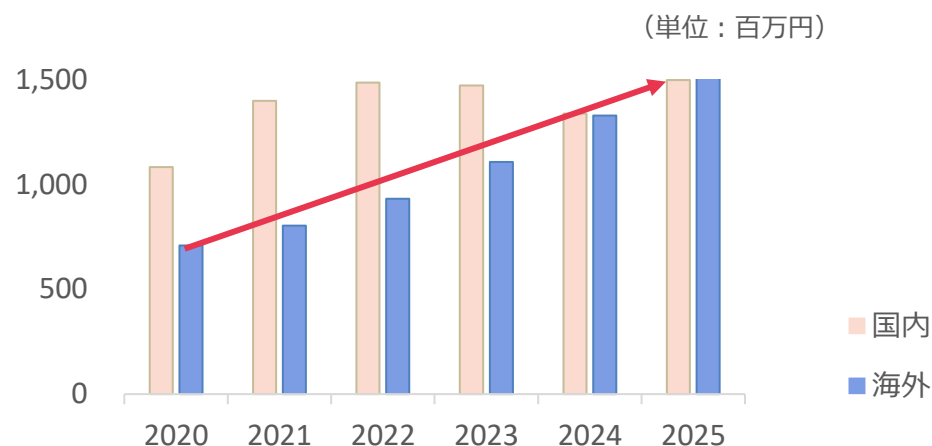
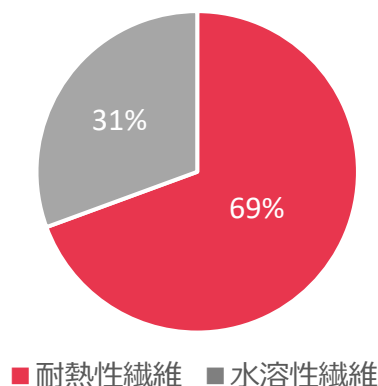
- ◆共通仕様の車両拡大による生産効率の向上、販売代理店との協力強化
- ◆海外メーカーとの連携による製品ラインナップの拡充



繊維事業について（機能性繊維事業・(株)ニチビ）

2024.12 決算説明会

■ 売上構成比及び海外での伸長について



■ 25年度の見通しについて

耐熱性繊維は、金属製造用途伸長により増収見込み

- ◆ 海外市場において、チタンやコバルト合金向け用途の案件が進行中であり、金属用途の販売拡大の見込み
- ◆ 半導体用途は需給サイクルの期ずれが継続しており、前期並みを見込む

水溶性繊維は、人工皮革用途の好調により増収見込み

- ◆ 自動車内装に使用される人工皮革用途のほか、海外向けアパレル用途の増収を見込む

■ その他取り組みについて

- ◆ 海外展開に関して、米国市場での展開に向けて代理店との連携強化
- ◆ 2025年に焼成炉の着工（2026年1Qまでに完成予定）
- ◆ 2025年に生産効率向上のために試験紡糸機設置（2026年テスト開始予定）

繊維事業について（実用衣料事業・オグランジャパン(株)）

2024.12 決算説明会

■ 2025年度の見通しについて

- ◆ベーシックインナーは、主要取引先での売上を維持し、前期並み
- ◆機能性インナーは、アクティブシニア向け軽失禁下着が通信販売で堅調推移
- ◆原材料価格の高騰や為替変動は、価格転嫁で対応

■ 今後の取り組みについて

- ◆収益基盤の強化
 - ・ベーシックインナーにおける商品品目の集約、ブランド構成の見直しによる収益性向上
 - ・採算性分析を基にした取引先の選定
 - ・事業ごとの収益性を考慮し、組織体制の再構築
- ◆介護、アクティブシニア向け軽失禁下着、フェムテックの事業拡大（成長分野）
 - ・顧客ニーズに対応した消臭・吸水性・速乾性等の向上やチャネルの拡大
 - ・フェムテックインナーは、既存取引・販路の拡大を推進



新規事業について

2024.12 決算説明会

■ 新規取得企業への対応

- ◆適正なPMIによる、グループ企業としてのコーポレートガバナンスの徹底
- ◆企業価値の最大化と収益の拡大

■ 個社の業況

会社名	直近の状況
(株)カタクラ・ クロステクノロジー (IT事業)	・ 人員体制の強化により、事業基盤が安定化し、業績が堅調推移。 ・ カタクラグループ内に「IT企画会議」を設置。その中心的な役割を担い、グループ全体のDXを推進（生成AIの導入等）。 ・ 子会社のニチビにおいて、事業特性を踏まえた生産管理システムの開発に着手するなど、グループ内のシナジー効果を最大限に活用。
(株)ガーデン エクスプレス (植栽事業)	・ リピーター率の向上、及び代理店網の拡大により業績は堅調推移。 ・ 新規代理店の拡大を進め、全国100店舗を達成。 ・ お客様ニーズに寄り添った提案により、顧客単価も上昇。

4. 基盤となる体制整備

ガバナンス体制及びリスク管理

主な取り組み事項

■ ガバナンス

- ▶ サステナビリティ委員会を定期的を開催し、取締役会へ報告

（主な審議事項

- ・当社グループの方針立案（共通課題の検討）
- ・新人事制度（企業理念に基づく、より公正な評価・処遇へ）

- ▶ IT企画会議の新設

当社グループ全体のIT管理・投資・DX化を統括

- ▶ 関係会社管理規程の改定

- ▶ 内部統制研修を継続実施

当社グループ各社へ研修を展開、受講状況を管理

■ リスク管理

- ▶ リスク統括委員会におけるリスク情報の収集

- ▶ 担当部における事業等のリスクの継続モニタリングを実施

⇔ 事案終結までリスクコントロール、

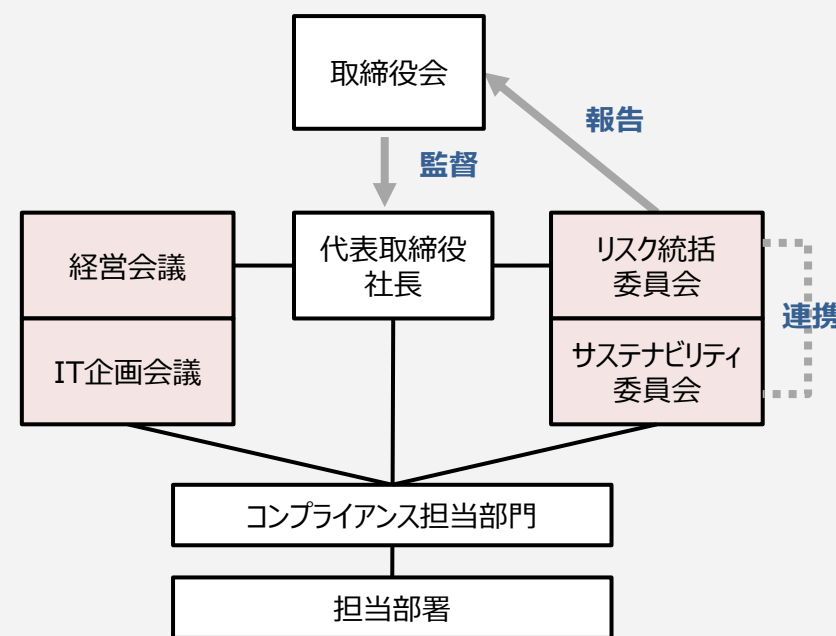
緊急度に応じて取締役会及び関係部署に共有

- ▶ 当社グループ各社に対し、BCPマニュアルのアップデート推進・防災研修の実施

■ コンプライアンスの推進

- ▶ 継続して、グループ全体でコンプライアンスの徹底・向上を図る

昨日よりもっと、なくてはならない存在へ。



人的資本

当社は、年齢・性別・経歴等にかかわらず、優秀な人材を積極的に登用するとともに、すべての社員に公正な評価および管理職への登用機会を設けるという考えのもと、社内環境の整備等に努めています。

平均年齢

39.3歳

月平均残業時間

17.5時間

平均有給休暇取得日数

10.4日

■ 指標および2030年目標

育休取得率

男性・女性ともに

100%

100%継続

育児休業後職場復帰率

男性・女性ともに

100%

100%継続

女性社員採用割合

新卒・中途採用の直近3年実績

55%

50%以上継続

女性管理職の割合

※主任職は含まない

16.3%

30%

※2024年12月末時点・単体

5. 株主還元について

株主還元（利益配分）

2024.12 決算説明会

■ 今回のトピックス

- ✓ 2024年11月に株主還元方針を変更し、**総還元性向を従来の30%から60%に大幅に引き上げ**。

【参考】株主還元方針

利益の配分については、安定的な配当の実施に努めるとともに、資本効率の向上等を目的として適宜機動的な自己株式取得を実施することとしております。総還元性向については、特殊要因(※)を除き、**親会社株主に帰属する当期純利益の60%程度を目安**として、利益還元に努めてまいります。

(※)：一時的な損失や利益計上により、当期純利益が大きく変動する場合を想定しております。

■ 株主還元の実績と予想

	FY2023	FY2024	FY2025（予想）
1株当たり配当金	20円	50円	50円
配当総額	663百万円	1,623百万円	—
自己株式取得額	239百万円	1,301百万円	(注)
総還元性向	29.7%	83.0%	—

(※) 適宜検討を実施